

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	①事業 効果 の発現 状況	②自然 環境 等の変 化	③施設 の維持 管理状 況	④地域 住民等 の評価	⑤地域 社会へ の貢献 状況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
1	地すべり 対策	長野市	((地)善福寺 せんぶくじ 善福寺	平成18年3月25日に融雪の影響による地すべりが発生し、人家1戸が半壊、土蔵1棟が全壊した。対策工事により地すべり活動の再発を防止し、民生の安定を図りたい。	現場吹付法砕工 A=1409m ² アーカー工N=72本 ΣL=736m 土留工L=234m 排土工V=4440m ³ 横ボ-リング工L=7670m	H18~H22	255,000	4.1	B	B	B	A	B	①対策完了後、地すべりによる変状は見られない。地元地区の安全度が向上しただけでなく、自主防災組織ができるなど、自主性の向上が見られる。 ②十分な緑化対策を採っており、自然環境に大きな影響はない。 ③土尻川砂防事務所で点検、パトロールを適宜実施すると共に、異常発生時の連絡体制を整備している。 ④迅速かつ丁寧な対応により、地域から高い評価を得ている。 ⑤地すべり対策事業が地元の防災意識を高める事につながっている。自主防災組織の運営が強化されるなど地域防災力の向上が見られる。	○近年、集中豪雨や融雪による地すべり災害が多発する中、同事業の必要性が、住民から認知されている。 ○今後も災害に強い地域づくり推進するため、施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図り、ハード・ソフト両面から土砂災害対策を進める必要がある。	砂防課
					現場吹付法砕工 A=1762m ² アーカー工N=82本 ΣL=1504m 土留工L=271m 排土工V=12610m ³ 横ボ-リング工L=4378m	H18~H22	324,047	3.2								
2	県営ため 池等整備 事業	伊那市	ふじづか 富士塚	ため池を改修することで、漏水防止による用水の安定供給、決壊等による災害の未然防止、維持管理の軽減を図り、地域農業の安定生産の向上と農村環境の保全を進める。	ため池改修工 1箇所	H19~H21	150,000	4.9	A	A	A	A	A	①堤体を改修したことにより、漏水に起因する決壊等の危険性がなくなり、生活の安全、安心が確保された。 ②桜の木をできるだけ残したことにより、従前と同じ景観が維持されている。 ③漏水が改善したことにより、維持管理がかなり軽減された。住民の関心も高まり、非農家も維持管理に参加するようになった。 ④漏水による決壊等の不安もなくなり、景観も維持されたことから、住民評価は高い。 ⑤水辺もあり、地域にとって、憩いの空間となっている。	今後、ため池の耐震対策を含めて推進していく必要がある。 農家の高齢化も進み、維持管理が容易な施設を検討していく必要がある。	農地整備課
					ため池改修工 1箇所	H19~H22	150,800	4.9								
3	水源地域 等保安林 整備	下諏訪町	とぎわね 砥沢	豪雨等により荒廃が顕在化していた流域において、施設整備・森林整備・作業道開設の一体的整備により、森林の水土保全機能向上を図る。	谷止工4個 森林整備 50.00ha 作業道1,100m	H14~H18	343,000	1.5	B	B	B	B	A	①森林の水土保全機能の向上及び保全対象の安全が図られた。事業完了後も豪雨を経験したが、災害は発生していない。 ②森林の持つ環境保全機能が回復し、自然環境の維持・向上に寄与した。 ⑤地元中学生の森林教育・防災教育のフィールドとして活用された。また、開設した作業道を活用し、所有者が自ら森林整備を行っている。	○平成25年度~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザ測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。 ○平成27年度に、インフラ長寿化対策に向けた既存施設の点検・診断を、一部の施設を対象に実施した。流域内には昭和初期に施工された治山施設も多数存在し、老朽化が進んで機能低下が見られる施設も確認されたため、計画的・効果的に補修等の予防対策を進めていく。	森林づくり推進課
					谷止工12個 床固工10個 山腹工0.78ha 森林整備 85.58ha 作業道2,627m	H14~H22	542,397	8.2								

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	⑤ 地 域 社 会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
4	水源地域 等保安林 整備	佐久市	ひろがわら 広川原	豪雨時に溪流の浸食が生じ、土石流となつて下流道路等保全対象に被害が生じたことから、谷止工を施工して溪流勾配を緩和して浸食を防止する。 手入れ不足となっている荒廃森林を適正な立木密度とすることにより林内照度を高め、林床植生を回復させ水源かん養、防災機能等を維持向上させる。	谷止工4個 本数調整伐 180ha 枝落し10ha 除伐10ha	H19~H21	105,000	10.2	B	B	B	B	A	①完了後、溪流の荒廃状況も改善してきており、災害は発生していない。 ③施設は長野県が管理しており、定期的な点検を行っている。 ⑤当事業としての改善措置の必要性はない。	森林整備については、当地区内の林内路網密度が低く、未整備の森林もあるので、保安林改良事業等を導入し、整備を実施している。 平成25~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザー測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設的位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。	森林づくり推進課
				谷止工8個 本数調整伐 110ha	H19~H22	182,600	3.0									
5	山地治山 (地域防災 対策総合 治山)	安曇野市	うらたけ 潮沢	平成16年10月の台風23号により発生した崩壊地の復旧や溪流内に堆積した土砂の抑止を行うとともに、ニセアカシアの侵入が著しい森林やカラマツ等の過密林を整備し、保安林としての機能回復を図るため事業を実施。	谷止工12個 山腹工1.67ha 森林整備13ha	H18~H20	306,300	23.0	B	A	B	B	B	①完了後、災害は発生していない。 ②崩壊地及び荒廃森林は、健全な森林に向かっており、自然環境は良くなったものと考え。 ④事業に対する否定的な評価はなかった(今回の意見聴取で当時のことを思い出した。復旧を行ってもらい感謝している。パトロールの復活も検討したい。その際は、市・県と一緒にパトロールを行い技術的なアドバイスをしてほしい)。 ⑤当事業としての改善措置の必要性はない。防災施設の整備や森林整備など県の事業実施で終わることなく、地域の防災マップを作成する等、地域住民の防災意識の向上につなげた取組も必要であった。	○実施した山腹工の中には、草が生育しているのみで、木の生育がまったく見られない箇所もある。施工時に天然による侵入を期待したため植栽を行わなかった箇所、植栽した木が鹿の食害にあったと思われる箇所等あり、将来を見据えた施工、維持管理が必要。 改善措置の必要性に記載した内容を踏まえ、ハード対策だけでなくソフト対策も併せて実施していくことが課題。 地域からもパトロール復活の声が挙がっている。地域を交えた防災活動を行い、地域の存続に寄与するようなことも必要。	森林づくり推進課
				谷止工11個 山腹工1.65ha 森林整備12.4ha	H18~H22	374,106	10.0									
6	県営林道 開設	飯田市	やはず 矢筈	スギ、カラマツを主体とした人工林の除間伐等の森林整備を推進し、水土保全機能の維持・増進を図ること。本林道はこれらの森林整備を促進するための基盤施設として開設した。	林道開設 L=9,500m W=4.0m	H3~H40	2,416,000	1.2	B	B	B	B	B	①本林道の利用区域内の間伐(除伐も含む)145ha実施の目標に対し、近年10ヶ年の間に、本林道を利用した間伐を167ha行った。 ②森林整備の実施により森林の公益的機能である、水土保全機能の維持・増進がはかられた。 ③林道開設後は管理主体である飯田市により随時維持管理が行われている。 ④森林へのアクセスが格段によくなったことにより、一定の評価が得られている。 ⑤山腹崩壊、土砂流出、倒木などの災害時に、調査、復旧作業など迅速に対処することが可能。	○主目的である森林整備は一定の効果が表れているが、今後さらに計画的・効果的な森林実施を行う必要がある。 ○比較的急峻な地形であるため、豪雨時には土砂流出の著しい沢部が数箇所あることから、適時適切な維持管理が必要となる。	信州の木活用課
				林道開設 L=2,251m W=4.0m	H3~H22	1,015,813	1.1									

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発 現 状 況	② 自 然 環 境 等 の 変 化	③ 施 設 の 維 持 管 理 状 況	④ 地 域 住 民 等 の 評 価	⑤ 地 域 社 会 へ の 貢 献 状 況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
9	街路事業	千曲市	じんじやまえ 神社前	旧更埴市の中心部に位置し、しなの鉄道屋代駅駅から県道屋代停車場線を經由して長野自動車道更埴ICおよびあんずの里へ至る本路線の整備を行い、市街地の交通安全の向上および商店街の活性化を図る。	道路改良工 L=241m	H20~H25	1,500,000	1.2	B	A	B	A	B	①(直接的効果)道路の拡幅により、しなの鉄道屋代駅へのアクセス性が向上した。歩道と車道の分離により、安全な歩行空間が確保された。 (間接的効果)街路樹の植樹、歩道的美装化により、沿道景観が向上し、歩行者にとって歩きやすい道路となった。お祭り等の地区の行事の際は、改良された道路を使用し、歩行者天国にするなど、広いスペースを有効に使うことができた。 ②街路樹の植樹により、都市緑化が図られ、沿道環境を整備することができた。歩道の整備・道路の拡幅に伴い、円滑な交通が確保され、自動車の排ガスによる影響が減少しているとの意見がある。 ③植樹および道路の維持管理については、道路パトロール等で適宜実施している。 ④車両・歩行者、両方が安全・安心に利用出来る環境となった。沿道商店へスムーズにアクセスできるようになった。しかし、一方、車道および歩道の拡幅に伴い、自動車および自転車のスピードが速くなり、危険を感じる時があるという意見もある。 ⑤安全な歩道ができたため、散歩やジョギングをする人が見受けられることから、健康的に暮らせる住環境の整備が行えた。	今後、市街地の街路整備においては、可能な限り無電柱化を図り、景観や防災機能の向上を図る必要がある。 沿道に連立する建物を補償する街路事業では、用地補償交渉に長期間を要するため、適正な工区設定を行い、早期に整備効果を発現させる必要がある。	都市・まちづくり課
					道路改良工 L=241m	H20~H25	1,176,353	1.5								
10	県営かんがい排水事業	安曇野市	あづみの 安曇野	本地区内の排水は、主として用水路によって処理されており、連続豪雨や集中豪雨のたびに、溢水被害が生じている、このため、基幹事業である国営事業と併せ、抜本的な排水改良を実施し高生産の農業の確立を図る	排水路工 L=25,298m	H7~H16	8,490,000	1.0	A	A	B	A	A	①事業完了後、大きな農作物の溢水被害は生じていない。 ②付随的に住宅の溢水被害が軽減されているとともに、自然景観に合うよう配慮している。 ③施設管理者である改良区、行政事務組合(広域排水事業所)が「安曇野広域排水維持管理協議会」を設置し連携しながら管理している。 ④農作物湛水被害は、52%が少なくなった等と回答。農地流動化は54%が「増えた」と回答 ⑤家屋への湛水被害は50%が少なくなった等と回答。	県内の基幹水利施設約1200kmについて、将来に亘って持続的な活用ができるよう、機能診断や保全対策を計画的に行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図っていく必要がある。	農地整備課
					排水路工 L=24,511	H7~H22	7,525,002	8.1								

(様式5)事後評価総括表

番号	事業名	市町村名	ふりがな 箇所名	事業概要				評価ランク					部(課)の取組方針		担当課	
				事業目的	事業内容	事業期間	全体事業費 (千円)	費用 対効果	① 事業 効果 の 発現 状況	② 自然 環境 等 の 変化	③ 施設 の 維持 管理 状況	④ 地域 住民 等 の 評価	⑤ 地域 社会 へ の 貢献 状況	【評価の視点】 ①事業効果の発現状況 (直接的効果、間接的効果) ②事業実施による 自然環境・生活環境等の変化 ③施設の維持管理状況 ④地域住民等の評価 ⑤事業の主たる目的以外での 地域社会への貢献状況		今後の取り組み及び同種事業への活用と課題
					上段:当初	上段:当初	上段:当初	上段:当初								
11	県営中山 間総合整備	木曾町	きそ ちゅうぶ 木曾中部 地区	農業生産性の向上と経営の安定を図るための農業基盤整備と、農村生活の向上、地域活性化を図るための農村生活環境整備を一体的に整備する。	用排水路整備 L=210m 農道整備 L=3,480m ほ場整備 A=48.8ha 集落道整備 L=2,020m 農業集落防災施設 N=12箇所 活性化施設 N=1箇所 交流施設 N=1箇所 情報基盤整備 N=2箇所	H12~H17	2,710,000	1.0	A	B	A	A	A	①ほ場整備や農道整備により、農作業の機械化が推進され、労力の削減や営農作業の効率化が図られ、生産性が向上した。また、活性化施設の整備により、特色のある農産物加工品の開発、生産、販売が促進され、多くの観光客によりにぎわいのある地域となった。 ②耕作放棄の防止、自然石水路の整備により良好な農村景観が保全されている。 ③地域の管理団体により適正に管理されている。 ④整備した施設は多くの住民や観光客に利用され、好評を得ている。 ⑤活性化施設の加エグループは、地域活性化のモデル的な取組みとして多くの表彰を受けており、全国的な注目を受けている。	○地元から本事業効果について高く評価されている。木曾地域はほとんどが地形条件の不利な中山間地域であり、本事業の実施の要望が強い。 ○今後も整備した施設を有効に活用し、地域の農業を支える担い手育成に取り組む必要がある。また、施設の維持管理に地域住民の参加を促し、地域に親しまれながら適切な管理を推進する必要がある。	農地整備課
					用排水路整備 L=220m 農道整備 L=3,215m ほ場整備 A=38.7ha 集落道整備 L=1,708m 農業集落防災施設整備 N=12箇所 活性化施設整備 N=1箇所 交流施設整備 N=1箇所 情報基盤整備 N=2箇所	H12~H22	2,109,000	1.0								